

令和2年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	33・1	学校名	清水南高等学校・同中等部	校長名	石川 芳恵
------	------	-----	--------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	中高一貫教育校にふさわしい教育課程の検討、授業改善及び学習指導の充実を図る。	「授業で力がついた」と答える生徒の割合：80%	中等部：85.7% 高校：75.6% ※中高あわせて80.6%	B	研修テーマと関連づけて考えたい。研修テーマが授業改善であるならば、図書・研修、進路課と校内の授業改善について方向性を共有したい。
		週5日以上家庭学習に取り組む生徒の割合：80%	中等部：69.3% 高校：68.6% ※中高あわせて68.9%	C	家庭学習に取り組んでいないという生徒は少数であり、生徒自身が学習時間の確保や学習の質の向上を考えられるようにしていきたい。
		校内演奏会、公開レッスン等実施回数：年間計12回	校内演奏会6回、課外授業3回、卒業演奏会、計10回 公開レッスンはコロナのため中止	C	コロナ禍で中止となった学習活動の代替えを計画することができなかった。
		美術鑑賞、実技講習会等 実施回数：年間計10回	美術鑑賞0回、実技講習会7回実施。長期休校もあり、目標10回以上を達成できなかった。	C	コロナ禍の影響はあったものの、諦めずに開催できるものはすべてやりきれたと思う。
		授業公開週間実施回数：年間4回 外部講師による講演満足度：80%	十分満足、ある程度満足を合わせて97%に達し、十分達成できた。今年度は年3回の授業公開となったが、全職員による参観回数も目標に達することができた。	B	一層「ちゃんと見週間」などを充実させて、質の高い授業実践に役立てていきたい。研修テーマに沿うものになっていたのか、再度検討することが必要である。
		アクティブ・ラーニングの実施に取り組む教員の割合：80%	89%まで達することができ、十分満足のいく結果となった。アクティブ・ラーニングが浸透している結果であると考ええる。	A	形式だけでなく、内容の充実がさらに求められている。「メディア・リテラシーの能力」の養成が大切だと思われる。生徒に育みたい力から、主体的・対話的で深い学びに向かう授業とは何かを共有し、6学年すべての授業で共通して取り組んでいくものを構築していくことが必要である。
		測定ツールで把握した学力に基づき授業改善に取り組んだ教員：80%	授業リサーチ、模試、学調、授業アンケート等の結果を分析し、授業改善にと組んだ。	B	分析結果から授業や試験内容を工夫した。生徒の学力分布と気質の変化に対応しなければ、行き詰る可能性がある。
		「協調性、表現力、忍耐力が身に付いた」と答える生徒の割合：80%	アンケート調査結果：83.1% 当てはまる42.0% だいたい当てはまる41.1%	A	アンケート結果から目標を達成したが、「協調性」の面で各学年とも生徒間のトラブルが発生している。本来の目的を意識した指導を強化する必要がある。

様式第3号

イ	こころざしを育む進路指導の充実を図る。	講演、講義等の回数：年間計10回	高校1年部：進路集会3回、進路学習5回 高校2年部：進路集会5回 高校3年部：文理別集会1回、進路講演会2回	A	主に休校中臨時登校日、LHRを使い年間計画通り進路集会・学習を進めることができた。清水南進路の話に加え、河合塾、ベネッセなど外部講師による講演を実施し、進路の意識を高めることができた。
		「自らの進路についてより深く考えるようになった」と答える生徒の割合：80%	高校1年：82.1% 高校2年：86.6% 高校3年生：97%	A	模擬試験の前に志望校についての調べ学習をして進路を明確にした。担任のきめ細かい面接を通して、また各教科の指導を通して進路について真剣に考える機会を多く提供した。学力が意識と結びついていない。(課題)
		[中等部] 学力到達度調査 評価A以上：30%以上(中3) [高校] 国公立大学合格者数：25%	GTZ 評価S及びAの生徒の割合27%。B1を含めると38パーセント。3月末まで待たないと最終結果は、わからないが現段階で、マーク模試の結果から国公立に合格できそうな生徒の割合は27.5%。	A	補講日数が少ない状況で下の層への指導を手厚くしたため中間層及び上位層への指導が疎かになった。頻繁な担任会を通して一人一人の生徒の進路を丁寧に検証してきた結果が推薦入試の結果で表れているが、例年同様多くの課題がある。
ウ	効果的な生徒指導・保健指導を推進することで、規範意識と自己肯定感を高め、心身ともに健康な生徒を育成する。	「自ら進んであいさつをしている」と答える生徒の割合：80%	高校78.6%、中等部80.3%。高校が達成できなかった。年度当初よりあいさつをする生徒が増加した。	C	あいさつ運動の成果は出ている。今後も継続して行い、あいさつを徹底させる。
		教員参加による交通安全街頭指導の実施：年間10回	生徒課以外の先生方の参加を得て、交通安全街頭指導は、年間10回実施できた。	A	自転車のマナーの改善が見られた。自発的にルールを守る行動が取れるよう継続的に指導を行う。
		「信頼できる先生がいる」と答える生徒の割合：70%	「信頼できる先生がいる」と答える生徒の割合：中等部75.0%、高校64.8%	B	中等部において、「信頼できる先生がいる」と答えた生徒の割合が特に高い。
		「自分には良いところがある」と答える生徒の割合：70%	「自分には良いところがある」と答える生徒の割合：中等部63.7%、高校64.3%	C	中高ともに自己肯定感が少し低くなっているのが気になる。自己肯定感が学業生活全般の達成度を引き上げていくことに繋がるので、改善方法を考えたい。
		「相談室だより」発行：年間5回 生徒向け掲示板更新：毎月1回 「学校に相談できる人がいる」と答える生徒の割合：80%	相談室だより発行：年間5回(見込み) 生徒向け掲示板更新：毎月1回以上 中等部：80.7% 高校：70.8% (全体75.2%)	A	計画通り実施でき、教育相談室のアピールにもつながったと思われる。今後も続けていきたい。
				B	今年度は6ポイント近く下落した。中等部は目標を達成することができた。コロナによる休校等で不安な気持ちになる生徒が増えた半面、学校での相談の機会が減少したことが原因と思

様式第3号

					われる。心配な生徒を早期に発見し、積極的な声掛けを行うことと、教育相談室の環境整備を行うことが急務である。また、生徒同士が相談しあえる雰囲気を作るため、ピアサポートなどを積極的に取り入れ行きたい。
		「保健だより」の発行：毎月1回	4月から12月までの8ヵ月間に12回発行した。毎月1回以上発行できた。	A	新型コロナウイルスに関する内容を多く取り上げたが、中高養護教諭だけでなく管理職とも連携し、国等からの通知にあわせて迅速に発行した。
エ	学校行事、部活動等の充実を図り、社会性と自立心を育成する。	部活動に一生懸命取り組む生徒の割合：80%以上	高校82.2%、中等部86.4%。中・高ともに目標を達成した。	A	中・高連携し、コロナの対応をしながら活動ができた。教員側の部活に対する認識を共有する必要がある。文化部への転部が多く、調整が必要。
		部活動ガイドラインの遵守および各部活での毎月の活動計画作成と、生徒・保護者への周知	各部活動がガイドラインを遵守し、活動計画を作成した。	B	部活動ガイドラインをもとに毎月の活動計画を作成した部活動が増えたが、徹底はできなかった。活動計画は、もう少し早めに生徒・保護者に周知する。
		海外研修で「充実している」と答える生徒の割合：90%以上 海外交流行事実施：1回以上	コロナ禍で制限が多い中、国内での活動となった。変更が加わったこともあり事前学習での動機づけは不十分な面もあったが、満足度は比較的高かった。	C	行き先は変更したが、研修旅行委員会を中心に事前研修に取り組めた。SDGsの指針に基づいた目標の定義も、生徒にはわかりにくかったかもしれないが、積極的に学ぶ姿勢が見られた。国内での国際交流の在り方をしっかり考えていくべきだと思う。
		ボランティア活動・社会貢献活動・奉仕活動経験生徒：60%以上	高校31.4%、中等部31.5%。中・高ともに大幅に達成できなかったが、各部活動では、ボランティア活動を計画し、実施ができた。	B	コロナの影響で外部でのボランティア活動が厳しい状況であった。生徒の視野を広げるためにも、地域の人たちと交流するボランティア活動に参加させたい。今後も継続させ、意識付けを行っていく。
		「学校生活が充実している」と答える生徒の割合：70%	高校75.8%、中等部80.0%。中・高ともに目標を達成できた。	A	コロナ禍で行事がなくなってしまったが、できる限りの工夫ができた。生徒会活動や部活動を通して、学校生活を充実させることができた。
		全校読書会の生徒充実度：70% 図書館貸出数：4000冊以上	全校読書会の活動にしっかり取り組んだ生徒：84.8% 図書館貸出数：4000冊以上 朝読書実施（中等部は通年、高校は朝読書週間年4回実施）	B	全校読書会と朝読書を連携し、読書のきっかけや機会の増加に繋がられた。時間的制約があったが、学年を越えた交流活動ができた。年度初めの一斉休校の影響で合計の貸出実数は4000冊に届かなかったが、月平均を考えれば、例年通り4000冊以上となった。高校生の貸出数を増やすことが課題である。
		土曜オープンスクール参加者数：年間1,600人 ホームページアクセス：年間500,000件	参加者数（1回のみ）591人 アクセス	B	コロナ禍であったが、一回開催できたことは意義があった。HPへのアクセス数がコロナの影響で多くなっていると思う。今後は、HP等で積極的に

様式第3号

オ	開かれた学校づくり、安心・安全の学校づくりを推進する。		:年間961,564件		学校を紹介することが必要になってくと思う。オープンスクールの受付が、体温を測ったり、住所を記入するなど大変混雑し時間がかかった。来年度は受付する人員を増やす、体温を測る機械の導入を考えたい。
		PTA 総会出席率: 50%以上 学年保護者会の出席率: 50%以上	P T A総会出席率: コロナの影響で役員のみ 高校: 84% 中等部: 81% 中高共通: 82.5%	B	PTA 総会は本部役員数名で開催となり、保護者の出席は無しとしたが、郵送形式の委任状は90%(中)95%の回収率。保護者会は別の機会に行われたが、本校への関心の高さが感じられた。PTA 総会時に有意義な情報が得られないと総会の出席率は今後上昇しない。「授業参観→総会→表現プチ発表などのパフォーマンス→学年・クラス懇談」の順にすれば総会にもついでに参加してもらえないのではないか。
		実践的防災訓練実施: 年間3回 地域防災訓練参加率: 中等部 75%、高校 45%	防災訓練年間1回実施(1月) 地域防災訓練参加率: 中0% 高3.9%	C	地域の防災訓練が中止や代表者のみとなる地区が多かった。その分、学校内での防災に関する取り組みを例年以上に増やすなど、防災意識を高める生徒への啓蒙は必要だと感じた。
		講話や研修等の取組: 月1回以上	定期の職員会議や朝の打ち合わせの時間を活用してコンプライアンスに関する短時間研修や注意喚起を行った。	B	コロナ禍により、授業時間確保の優先課題がある中、コンプライアンスに特化した研修時間を確保することができなかった。適時に注意喚起は行えた。
カ	環境美化、事務業務の効率化、働き方改革を含めた業務改善を行う。	平常の清掃、学期初めと終わりの清掃及び全校清掃の徹底	平常の清掃、学期初めと終わりの全校清掃を実施した。	A	学期初めと終わりの日課によって、中等部と高校の清掃時間がずれていることがあり、清掃監督がつけなかった場合があった。清掃場所によって、清掃担当HRと監督者の割り振りに、より配慮したい。
		予算執行等に関する校内研修会の開催: 年1回	5月の職員会議内で研修会を1回実施	A	適正な会計処理が行われた。「不適切な会計処理の根絶」をテーマに事例を交え研修会を実施。さらなる情報発信を丁寧にしていきたい。
		夏季休暇の取得率: 100% 時間外勤務一ヶ月45時間以上、年間360時間以上の教職員: 0%	夏季休暇の取得率: 100% 時間外勤務一ヶ月45時間以上: 14.9% 年間360時間以上の教職員: 26.9%	C	働き方改革を推進するために、特定の部活動の運営改善と業務改善を進めなければならない。休暇取得し易い職場の雰囲気を引き続き醸成していく。
		職員会議における報告の簡潔化と審議の効率化による勤務時間内での会議の終了	職員会議は、資料の工夫や各発言者等の協力により、ほぼ毎回予定時間内に終了できた。	B	運営委員会を活性化させ職員会議へ繋げることが重要である。運営委員会での審議を深めるために、各分掌と各学年で課題の共有を図る必要がある。